

SUUMO  
住みたい街ランキング2024  
首都圏版  
7年連続 **1**位  
総合 **1**位  
(リクルート調べ)



# なぜ、横浜は 子育て世帯の評価が 3割以上 アップしたのか？



ハナシを  
聞いたのは



マンション・スペシャリスト  
**高江 啓幸氏**

東北大学卒業後、株式会社リクルート入社。以来約20年にわたり主に首都圏の住宅領域事業に従事したのち独立。現在は事業者コンサル及びエンドユーザー向け住宅購入セミナーの講師や住宅関連誌・ウェブサイトへの記事執筆など、不動産業界の専門家として活動している。



## 総合ランキングに加えて、子育て世帯ランキングでも1位を獲得した横浜

人々が思い描く「横浜」の範囲は他の駅よりも広く、市内各駅(街)の魅力も「横浜イメージ」を支えているのではないだろうか。市内のどこに住んでも鉄道網が整備され、海や山などの自然にあふれ、都会的なショッピング施設が近接する。ランキングは子育て世帯が求める「職・住・遊」完結型の暮らしが叶う横浜全体の評価を「横浜」駅が代表した。そうも見える。特筆すべきは、今年は図の通り評価点が上昇したことにある。それも「子育て世帯」のポイントは何と約32%の伸び率を記録。その理由は何か。



SUUMO住みたい街ランキング  
2024 首都圏版 (リクルート調べ)

得点ジャンプアップした街(駅)ランキング  
**1**位 横浜 1560点 (+123) **1683**点  
(2023年) (2024年)

住みたい街 夫婦+子ども世帯ランキング  
**1**位 横浜 471点 (+155) **626**点  
(2023年) (2024年)

### Reason for Rank Up 01 良好な住宅環境に近接する 多彩な「働く場」

#### 「横浜」街の魅力項目TOP5

- 1**位 魅力的な働く場や企業がある
- 2**位 文化・娯楽施設が充実している (映画館、劇場、美術館、博物館など)
- 3**位 ショッピングモールやデパートなどの大規模商業施設がある
- 4**位 仕事のできる施設がある (コワーキングスペースやカフェなど)
- 5**位 メディアによく取り上げられて有名である

※SUUMO住みたい街ランキング2024 首都圏版(リクルート調べ)

ベッドタウンというのは文字通り「寝に帰る街」だが、横浜は違う。市内には多くの企業本社や研究開発拠点が立地。横浜に住みたい理由として「働く場」がトップにきているのも納得だ。また市内を通る鉄道沿線には良好な住宅環境が広がり、特に急行が停車する駅には働くにも買い物をするにも魅力的な店舗が揃う。ランキング評価にはこの職と住の近接性が作用したと言えるだろう。



#### 学術・研究開発機関の事業所数

政令市 **第1**位

※「令和3年経済センサス活動調査」(総務省統計局)

### Reason for Rank Up 02 身近な公園も大規模パークも充実。 豊かな自然で体験型の子育てが叶う。

「身近な公園数」や「スポーツ環境の充実」といったデータから明らかのように、子育てに適した環境が整っているというのが、横浜の大きな魅力であることは間違いなく。加えて様々なレジャー施設も各所にあり、ひとつの自治体に動物園が3つもあるというのは聞いたことがない。先に挙げた職と住に加えて、遊びにも事欠くことがないという点が、実の評価につながっているのではないだろうか。



#### 身近な公園数

全国 **第1**位 2,580カ所

※横浜市調べ ※市民の身近にあり、日常的に利用される公園(住区基幹公園)

#### スポーツ環境の充実度

全国106都市 **第1**位

※「スポーツ環境」に関する都市ランキング(令和4年 野村総合研究所)をもとに横浜市が作成(政令市、中核市、県庁所在市、施行時特別市)



### Reason for Rank Up 03 出産費用助成や小児医療費無償化など、 子育てサービスを次々拡充

昨今のファミリー世帯が望んでいるのは「家族と一緒に過ごす時間を大切にできる暮らし」であり、そのためには「職・住・遊」を集約した方が快適だし、効率がよいのだ。故に暮らしに必要な多くが揃う横浜が子育て世帯から高い評価を得たのだが、その理由にはもう一つ、ここ数年拡充してきた「子育てサービス・助成」等の施策が功を奏した面もあるはずだ。出産費や妊婦健診の助成、中学生までの医療費無償化等、各施策については次ページで詳細にしていきたいと思う。





ファミリー世代の  
評価が急上昇!

# 最新版! 横浜の子育て情報

子育て世帯からの評価アップは「子育てしたいまち」をメインテーマに掲げた横浜市の中期計画によるところが大きいだろう。妊婦健診の公費負担額拡充や出産育児一時金として横浜市独自に助成する施策が始まる点は大いに評価できる。そして、未就学児支援においては2種のクーポンが配付され、気軽に子どもを預けられる環境もある。

また、学童支援においては長期休暇中の配食サービスが今年の夏から始まる予定だ。どうだろうか。これだけの切れ目のない支援は自治体の中でも先進的と言える。各施策が今後の住みたい街ランキングにどのように作用するのか、引き続き注目していきたい。



## 妊婦の健診費用を大幅に軽く (令和6年10月~)

妊婦1人当たり+5万円 (現状の助成額82,700円と合わせ、計132,700円を助成)

- ※以下①②のいずれも満たす方
- ①令和6年4月1日以降に妊婦健診を1回以上受診した方
- ②上記①の健診受診日から支給申請日まで横浜市内に住居登録がある方

## 出産費用を大幅に軽く (令和6年10月~)

子ども1人当たり+最大9万円 (出産育児一時金50万円に横浜市独自に上乗せして支給)

- ※健康保険組合からの出産育児一時金の付加給付を差し引いた額を支給します。
- ※以下の①~③のいずれも満たす方
- ①令和6年4月1日以降に出産した方(妊娠85日以上の死産・流産を含む)
- ②出産した日から申請日時点まで横浜市内に住居登録がある方
- ③健康保険に加入されている方

## 小児医療費無償化 (中学3年生まで)

※所得に関係なく、0歳から中学3年生までの子どもの医療機関等での保険診療の自己負担額が無料です。



## 「みんなで食べる中学校給食」 スタート(令和8年4月~)

※市立中学校で「全員給食」が、令和8年4月からスタート予定。  
※市の専任の栄養士がつくる食事で、子どもたちの成長を支えます。

## 他にも沢山の子育て支援策が 続々スタート



首都圏  
第1位  
病院数  
※「令和4年医療施設調査」(総務省統計局)

政令市  
第1位  
預かり所数  
※「こども家庭庁調査」

子育て  
関連施設も  
充実!



### 01 無料おあずかり クーポン配付

はじめてのおあずかり券  
対象児童1人につき24時間分の電子クーポンを配付。  
子サポdeあずかりおためし券  
対象児童1人につき8時間分の電子クーポンを配付。

### 02 子育て世代の 省エネ住宅への 住替えを支援

子育て世代の省エネ住宅への住替え費用をサポート。太陽光発電設備と蓄電池等を設置した場合、最大150万円を補助。予約は2024年3月開始。

### 03 保育園登園時の 紙おむつやエプロンの 準備が不要に!

紙おむつ・食食用エプロンなどの定額利用サービス(サブスク)の導入や、使用済み紙おむつの処分に取り組む保育園等に補助。

### 04 夏休みの お弁当づくりが 不要に!

夏休み期間中、全ての放課後キッズクラブ・放課後児童クラブで配食サービスによるお弁当を提供。  
※お弁当の料金は400円。

※各施策の詳細・ご利用条件は横浜市HPをご覧ください。

## TOPICS

### 全国初! 子育て手続きがスマホで可能に! (7月1日開始予定)

妊娠・出産~6歳までのさまざまな手続きをウェブサイトやスマホアプリから行えます。今後、小学生以降の各種手続きに順次拡大していきます。

母子手帳機能が搭載されるほか、予防接種時期のお知らせが個別に届きます。

保育園や公園など、子育てに関する施設検索も可能になります。

#### 申請可能な手続き

- 産後母子ケア(訪問型)
- 小児医療費助成
- 児童手当
- 児童扶養手当
- 一時預かりの予約など

### 暮らしの魅力を伝える 「横浜移住サイト」

充実した子育てサポート、自然環境、交通利便性、エンターテインメントの豊富さなど「横浜ならではの暮らしの魅力」に加えて、住替えに関する補助金や乳幼児の一時預かりなど、暮らしを支える制度を分かりやすく紹介しています。



横浜移住  
サイトは  
こちら



# 市民 評価

Yokohama Resident

港北区在住  
Mさん

共働き 4人家族  
前居住地:東京都世田谷区

より広い住まいを求め、2008年、港北区に戸建てを購入。10歳・5歳の男の子がいる4人家族。3年前より地域子育て支援拠点の運営や預かり事業等を行う認定NPO法人「びーのびー」に参加。子育て当事者の感性を活かし、子育て情報の発信、企業連携、事務請負、コンサルティング、イベント運営などの事業に携わる。



子育て支援スペース「COCOひよし」(2024年5月撮影)

## カブトムシ捕りやタケノコ掘りなど なかなかできない体験が身近に。

子どもが生まれて感じたのが、都内とは“自然のレベルが違う”こと。世田谷区も緑が多いエリアだと思うのですが、公園が徒歩圏内に10ヶ所以上あったり、すぐ行ける距離に自然が広がる市民の森や大規模な動物園などのレジャー施設があったり、自然との関わりは格段に増える環境だと思います。近所のお寺の裏山でのカブトムシ捕り、タケノコ掘り体験や、この子の行く公園で実施しているプレイパークでは焚き火ができたり、“より深い自然体験”が気軽にできる点は横浜ならではの魅力だと思います。



## 魅力的な駅が各所に点在 多彩な働き方ができる街。

自然が身近にある環境でありながら、各所に点在する駅がそれぞれ先進的で魅力がある点も横浜の魅力です。息抜きがしたい時は横浜・みなとみらい方面に行けば非日常感を味わえますし、たまプラザやセンター北・南、鴨居のらぼーと横浜、港北ニュータウンなど出かけたくなる街は山ほどありますし、どこも車で行きやすくてゆったりできます。東急新横浜線が開業したことで、交通網がより充実しました。都内でも市内でも、仕事の選択肢が多彩で、自分にあった働き方ができると思います。

## 地域で子どもを育て合う 子育てフレンドリーな環境。

身近に知り合いがいないうちで子育てをスタートしたのですが、子育て支援施設で同じ状況の方やボランティアの方と話がしやすい環境はとても助けになりました。都内から転入してくる方が多いので、皆さん不安を抱えていると思いますが、地域に必ず相談できる拠点がありますし、“子育て中の方が多い”ということ自体、横浜に暮らす大きな価値だと思います。私は通っている保育園で「子どもを真ん中に」しながら、親と園と地域と一緒に子育てをすることを教えてもらいました。親が親になるための気づきを与えてくれる環境が整っている街だと思います。



## 急速に進む子育て手続きのDX 家族に優しい街へ進化する横浜



私自身、子育て支援拠点の運営をはじめとする各種支援を行う法人に所属しているので分かるのですが、横浜市の子育て手続きのDX(デジタルトランスフォーメーション)はすごい勢いで進んでいると感じています。まもなくサービスが開始される「子育て応援サイト・アプリ」は子どもの情報を登録しておく、年齢に応じた情報が受け取れたり、予防接種の予定が確認できる等、嬉しい機能が沢山。各種助成金の申請から一時預かりの予約まで、子育て関連の手続きがスマホひとつで完結できるそうです。個人的には手間のかかる保育園や放課後キッズクラブの入園申し込み・延長手続きなど、ほとんどのことがいづれこのツールでできるようになるとのことで、とても期待しています。